

2021（令和3）年度 学生教育改善会議 報告書

大阪大谷大学 FD 部会

I. はじめに

現在、大学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント：大学の教育内容や方法等に関する研究・研修を組織的に行き、教育改善につなげていく活動のこと)が義務付けられており、本学においてもさまざまな FD 活動を実施し、隔年で FD 報告書としてまとめています。

より効果的な FD 活動を実践していくために、本学では 2018（平成 30）年度より教職員と学生が組織する「学生教育改善会議」を設けました。この会議では、各学科・専攻から選出された代表学生（学生委員）にご協力いただき、学生による FD 活動の検証のほか、日常的な授業や教育環境、カリキュラム等に関する意見交換を実施しています。

2021（令和3）年度は、8名の学生のみなさんの出席のもと、2021年8月30日(月)13:00より、①授業評価アンケートおよび授業改善、②カリキュラム（教育課程）、③教育環境（教室の設備）、④遠隔授業について、事前に回答いただいた内容を踏まえ、リモート（Zoom）にて開催しました。

II. 会議の内容

学生委員からの意見	教職員からの回答
①授業評価アンケートおよび授業改善について	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートについてはおおむね授業実態を概ね反映している。 ・授業を受けている感じから全体的な評価は低いと感じる。オンライン授業となり課題がかなり増えているため、実習や授業の課題を行いながら、自学習の時間を確保することは難しいのではないかと。 ・学習時間や出席率が低く感じる。出席率に関して意欲的に参加できている場合、出席率が高くなって良いのではないかと。 ・授業評価が低い結果となった時、担当教員はどのように改善を考えているのか。 ・静かに授業を聞くことが意欲的に参加することにつながるのであれば評価は反映されていると思う。ただ、意見交 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均点が低いことは謙虚に受け取るべきである。学習時間が少ない点については改善が必要であると考えます。 ・出席率や自学習の取り組みについて、積極的かつ意欲的に取り組むことができるよう授業方法など検討している。授業と課外活動は社会人になるための大切な時間であると考えている。 ・授業評価の結果を受け、各授業担当者は結果を踏まえ、改善内容を検討し学内のホームページに公表している。履修登録の際にも参考になるため、多くの学生に活用してもらえよう、周知の仕方を検討する。 ・アクティブラーニングに関して、コロナ禍もあり、難しい点がある。授業方法を工夫しながら、受講生が主体的

学生委員からの意見	教職員からの回答
<p>換や議論する点は少なく、主体的に授業を受けているといえるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関連した自学自習の数値を高めることが大切であると感じる。定期的に課題を課す、任意の課題であっても学生が自主的に取り組める工夫があれば、自学習する学生が増えるのではないか。 ・授業の欠席回数について、3分の1以上の欠席では受験停止となるが、3分の1までは理由があって休んでも大丈夫という意識が学生だけでなく教員側にもあるのではないか。 ・入学後の取り組み方の気持が学生間で差があるため、この点を考慮しながら積極的に参加できる授業づくりが必要となるのではないか。 	<p>参加できるように取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が納得できる課題設定を考える必要があると考えため、学部内でも話し合っていきたい。 ・3分の1以上の欠席は受験停止になることは伝えているが、5回までは休んでよいというニュアンスにつながることは改善しなければならない。授業開始時に説明を丁寧に行うようにしていきたい。 ・専門の強い科目を学びたいという学生とそうでない学生の差はみられる。学校全体として教員間でも連携し、良い環境づくりに努めていきたい。
②カリキュラム（教育課程）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科目において、担当教員が異なる場合、教え方が異なり戸惑うことがあった。同一教員での履修ができるようにならないか。 ・キャリア教育科目について1回生から積極的に履修できる環境があれば良かったと思っている。また、資格関連の授業において、取得できるという説明であったが学生によっては取得できない場合があり、不満がある。 ・上回生になると教員採用試験の勉強に時間を充てたため、共通教育科目の単位を1、2回生の間に修得したいが、学年の設定など改善できないか。 ・教職課程の科目の配当学年について、複数免許の取得を目指す、卒業と同時に希望する免許全てが取得できないことがある。3回生配当の科目を2回生配当に変更できないか。3回生以降の負担が大きいため、教職課程の科目に限らず2回生までの履修等考えていただけないか。 ・対面授業と遠隔授業（オンデマンド授業）の併用により、スケジュール管理が難しいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ教員でも履修できる時間割としているが、抽選結果によっては異なる場合がある。貴重な意見であり、外国語の履修について検討していきたい。 ・キャリア教育科目については履修できる状況を整備しており、1回生の受講生も増えており、今後も改善に努めたい。民間企業を進路希望する学生だけが受講するための科目群ではなく、進路を考える上で必要な授業でもあるため、今後丁寧な説明を行いたい。資格免許に関しては意見を関連部署にて共有し、重複科目を分析し調整できることから改善に努めている。 ・CAP制を導入し、適切な履修環境を改善している。履修科目の各自の選択できる環境を保ちながら、今後も履修の時間割について検討していきたい。 ・教職課程については全学的な内容でもあるので今後検討する。社会・地理歴史・公民の教員免許取得に関して、関係する学科で検討している。免許取得については決められた取得科目があるため、早めの履修相談を受けていただくことをお願いしたい。 ・オンデマンド授業も時間割通りに受講することが望ましいが、学生に配慮し受講時間を1週間としている。学生の負担も考え検討しているところである。

学生委員からの意見	教職員からの回答
③教育環境（教室の設備）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・教室の椅子の老朽化、温度調整を含む空調の不具合、ネット環境の整備希望、プロジェクターの投影の不具合、教室内にゴミ箱を設置希望等が意見としてあった。 ・入講時に学生が密になっている。 ・学習空間と遠隔授業を受講する空間が分かれていないことにより受講が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学構内での遠隔授業の受講状況として、パソコンを登学時の携帯状況、構内での受講場所について意見交換を行った。多くの学生はパソコンを携帯できておらず、自分の回線を使って受講している学生もいる。今回の意見を参考に改善していきたい。 ・入講時に密になり、安全な動線の確保を検討している。また、キャンパス整備の中でもトイレの改修は優先順位を高く考えており、大学全体での Wi-Fi 環境を改善する方向で進めていきたい。ポストコロナを見据えて、中・大教室の換気能力を挙げ、十分な安全環境を保っている。今後も休憩も学習もできるオープンスペースな環境を作るなど検討を重ねていきたい。
④遠隔授業について	
<ul style="list-style-type: none"> ・良かった点として、通学時間が不要になり時間に余裕ができた、課題のフィードバックが充実できた、繰り返し学習が可能になったので復習の時間が十分に取れた、私語がないため学習環境をしっかりと整えることができ集中して授業が受けることができた、コロナの感染は心配だったが、インターンシップやボランティアに参加して充実した時間が持てたなどの意見があった。 ・困った点や不満な点として、動画の長さが90分を超えるような授業があった、過剰な課題や短い提出期限の課題があり困った、授業方法や基準が違う、スケジュールの管理が困難であったこと、教室環境が整っていなかった、対面で行われることもあり、どの授業実施方法で行われるのか理解するのが難しかった、友達と授業内容を共有することができないこと、能動的な学習意欲が低下すること、用紙やインク代がかかり経済的な負担があること、動画の資料がなく課題のみの授業があった、授業時間が長いものや短いものがあった、同時双方向型で早口の場合、理解するのが難しいといった意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業では良い点や悪い点があるが、教室の整備も踏まえ、まずは来年度に向け、対面授業と遠隔授業をできるだけ分けて時間割を設置していけるよう検討を進めている。完全に分けられるかどうか、コロナの状況によっては、今年度のように対面で実施できなくなることもあり、皆さんの協力をいただく必要が出てくる。遠隔授業の課題等については授業担当教員が共通理解できるルール作りに努めたい。 ・ある学生の意見では授業外の学習時間が1コマあたり週3時間設けるのは現実的ではないのではないか、という意見があった。これは法令上決まっていることであるが、一方で授業評価アンケートではほとんどの学科で自学自習の時間が少ないという結果となっている。各授業の課題については学生の学習状況を考慮した上で提示されているが、課題に取り組んでいる時間を学生の皆さんが学習時間の取り組みと認識していない可能性があると推測している。自学自習の時間について表記方法等を検討していきたい。

Ⅲ. 総括

学生教育改善会議を開催して、今後とくに大学が取り組まなければならないことが以下の 3 つに集約されることがわかりました。

1. 授業評価アンケートの効果的な実施と活用について

授業評価アンケートを 2020（令和 2）年度より Web を利用した実施に切り替えたところ、回答率が低下しています。アンケートの実施方法や設問内容について、自由記述への回答も含めてすべての学生のみなさんが真摯に取り組めるよう継続的に検討していくべきだと考えています。また、授業評価アンケートを踏まえた授業改善に向けた授業担当者による評価考察を履修登録時に参考にしていただけるよう、評価考察の公表時期や方法について学生のみなさんへの周知方法を見直す必要があります。

2. 学習意欲の喚起について

授業評価アンケートについては、学生委員のみなさんからは概ね反映されているが、出席状況や自学習においては的確な回答を得られていないのではないかと指摘がありました。遠隔授業において受講生同士での議論する場が少なくなったという意見もありました。自学習の時間の確保については多くの大学が抱えている課題でもあります。学生のみなさんが主体的に学習に取り組んだことを実感できるようなアクティブラーニングを取り入れた授業実践、課題提示方法などについて、教員間で意見交換や授業公開を実施し、授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

また、取得希望の資格・免許科目の履修時間に関して、配当学年の検討やカリキュラムに関して意見いただきました。各学部学科のニーズを分析し、今後もカリキュラムを継続的に検討するとともに、学生の皆さんへ丁寧な説明に努める必要があります。

3. 今後の遠隔授業の実施について

新型コロナウイルス感染対策として、2020（令和 2）年度より遠隔授業を実施しました。今年度に引き続き、2022（令和 4）年度も部分的に継続します。遠隔授業については学生委員からの意見にあるように、利点も欠点も明らかになってきています。全面的な対面授業の復活が望めない状況のなか、遠隔授業を対面授業と遜色のない形式で実施していくことが求められます。その実現には、教員が得た遠隔授業の方法論だけでなく、学生のみなさん方が経験したことも極めて貴重な材料になります。今後も遠隔授業との併用は必要であり、望ましい遠隔授業のあり方について大学と学生のみなさんとの間の意見交換を継続し、実現可能な改善点から取り組んでいきたいと考えています。

最後に、事前の意見準備に加え、当日の会議に参加され活発な議論をしていただいた 8 名の学生のみなさんに、厚く御礼申し上げます。